

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100659		
法人名	社会福祉法人 地域でくらす会		
事業所名	グループホームいくのさん家		
所在地	鳥取市湖山町西2丁目237-2		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	令和4年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	令和4年 9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で、ご利用者一人ひとりが、どう生きたいのか、どんな暮らしがしたいかを考えながらの支援を心掛けていますが、コロナ禍で外出イベントの自粛が続き、外部との交流が途絶えて一年以上経ちました。そんな中、ご利用者と職員と共に、春にはお花見ドライブ、中庭にお花や野菜を植え、わかめを頂ければ干して乾燥わかめに、梅を頂けば梅干し作り等々、季節を感じられる何気ない日常を大切に、穏やかにゆつくりと流れる時間に喜びを感じられる毎日を心掛けています。

また、月に1回行っていた夕食の変わりに、メニューを見ながらテイクアウト弁当を注文したり、時にはたこ焼きパーティー、手打ちうどん作り、おやつ作り等々、食べることに楽しみにも力を入れています。

地域に向くことが困難な状態ですが、認知症の方への理解が広がり、住み慣れた地域での生活の継続が当たり前になるよう願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者も職員も、一人ひとりに合わせた支援を念頭に、きめ細やかな温かいサービスが行われているのが感じられました。感染症問題が長期化されている中、利用者の外出機会も制限されていますが、中庭や建物周辺を散歩したり、施設内の空きスペースを利用して運動するなど、機能訓練にもつなげられています。今後はオンラインを活用した面会等も検討されています。

また「食事を楽しむこと」も大事にされ、庭で収穫したものを調理して食べたり、普段口にするものないポップコーンを作って食べるなど、様々な工夫をされています。

人も場所も…温もりのある空間が作られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いくのさん家基本理念」は、入社時や年度初めの職員会議時に学ぶ機会を設けている。また、グループホーム独自の理念も合わせて読み上げ、意識共有するよう心掛けている。	事業所の理念に加えて、グループホーム独自の理念を作り、常にそれを意識した支援を心がけている。また実践につなげるために、日々の気付きを記録し、職員が共有する仕組みが整っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や町内行事に参加したり、事業所の行事には案内を配布し参加していただいていたが、コロナ禍は自粛中である。町内を散歩する等で交流が途絶えないようにしている。	地域の様々な行事等が中止となり、町内の方々との交流も困難になっているが、町内会に加入し、回覧板等を通じた付き合いを継続している。行事が再開されれば参加する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で以前のように公民館行事への参加や、外食、食材の買い出し等に行けていないが、書面運営推進会議等で皆さんに様々な認知症高齢者の事例を報告し、理解を深めていただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2年以上書面会議ではあるが、ご利用者の日々の様子や困難事例等は都度報告し、意見・アドバイスをさせていただき、サービスの向上に努めている。	会議は、書面による実施が続けられており、委員の方に文書で運営状況に関する報告が行われ、意見や感想を記入されたものが返送されている。それらの内容を議事録に集約し、委員や職員にも共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鳥取市職員や鳥取湖東地域包括支援センター職員の方に運営推進会議メンバーになっていただいております、事業所の報告をし、意見や助言をいただいております。	運営推進会議を通して、市の担当者から意見や情報ももらっている。日頃から協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で、持ち回りで職員がテーマを決めて「身体拘束廃止に向けて」の勉強会を行っている。その内容は運営推進会議で報告し、委員の皆さんから出た意見や助言を職員に伝えることで、身体拘束廃止についての知識を深めている。	身体拘束は行わない方針で支援が行われ、毎月勉強会を行い、正しく理解するように努めている。日中は玄関の施錠は行われていない。外に出ようとする利用者に対しては、引き留めるのではなく、気持ちが落ちつくまでゆっくりそばで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画の中に「虐待防止」の研修も含まれており、管理者・職員が虐待防止について学ぶ機会を設けている。また些細なことでも虐待につながらないように、疑問に思ったことは職員間で話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画の中にも成年後見制度を学ぶ機会を設けている。成年後見制度を利用されている入居者も増えており、制度の理解・活用が出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご利用者やご家族の立場に立って丁寧な説明を心掛けている。また、利用料等の変更がある際は、その都度ご家族に説明し、了解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で年2回実施していた家族会は行っていない。その分、窓越し面会時や電話等での近況報告時に、ご家族が意見や要望を言いやすい関係作りを意識して対応している。	家族との交流が困難な状況が続いているが、窓越しでの面会時に積極的に声かけをして、意見や要望を聞き取るように心がけている。今後はオンラインを利用した面談や、以前実施していたアンケートの活用等も検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の朝礼・夕礼のみならず、日々仕事をしている上で職員の意見や提案があれば、運営に反映するようにしている。	管理者と職員は非常に良好な関係が築かれ、意見交換も日常的に活発に行われている。職員から出た意見は、対応策を検討したうえで記録にも残し、全員が共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「自己点検・リーダー評価シート」を作成し、半年毎に評価を行い、各職員の適正や得意不得意を見極め、時には話し合いの場を設け、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修、その後は年間を通して所内研修の計画を立て実行している。法人外で研修があれば、必要に応じて参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、グループホーム交換研修も行われておらず、同業者との交流の機会が作れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するにあたり、ご本人と話を する中で、ご本人の気持ちや困りごと等をく み取り、安心して新しい生活が始められるよ う努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご家族の本人に対する思いや困りごと、不 安等をしっかり聞き取り、丁寧な対応を心掛 け、ご家族との信頼関係が築けるよう努力し ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、可能であればご家族(後見 人)と共にご本人も見学に来ていただき、お 話をし、納得した上で決めていただいている。 入居後の様子次第では他サービスへの 変更もあり得ることは、入居前に伝えるよ うにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意・不得意を理解し、その時の 体調等をみて声掛けし、日々の掃除・洗濯・ 食事作り・野菜や花の水やり等々を職員と 一緒に行っている。やらされた感にならない よう気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご利用者によっては、毎週のように息子さん が自宅へ連れて帰り一泊される方や、娘さん がかかりつけ医へ一緒に通院される等、 コロナ禍で対応が難しい時ではあるが、ご 家族の気持ちを大切にして対応を考えるよ うにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の強い希望で馴染みの美容院へカッ トや毛染めに行かれたり、昔から行かれて いた教会の方が季節毎にお手紙やメッセ ージカードを送ってくださり、お礼の電話をご本 人にかけてもらう等、関係が続くよう努めて いる。	外部との交流はまだまだ困難な状況だが、 家族にも関わってもらいながら、馴染みの人 や場所との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	個性の強いご利用者が多く、トラブルはつき ないが、日々の生活がより豊かになるよう、 相性の合う方同士の配席を心掛けている。 また、トラブルの際は仲介に入りケガのない よう気を付けている。意思疎通の難しい方 にも、職員が毎日言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族が年賀状をくださりお返事を皆で書いたり、ご家族が所属するコーラスグループでボランティアで歌いに来てくださったり(コロナ禍は中止)、入院で退所となられた方のその後の様子を電話にてお聞きしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族より以前の暮らしの様子をうかがったり、日常会話の中でご本人の気持ちや思いを聞けば記録に残して情報共有し、それに向けて支援できるよう心掛けている。	日常的に職員間で情報交換を行い、利用者や家族の意向等の共有が行われている。日々の生活の中でちょっとした表情の変化等を見て、一人ひとりに合った支援ができるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの友人関係や馴染みのお店などを把握し、できるだけ関わりが途切れないよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや、顔色、排便状況、ご機嫌等体調観察をしている。得意・不得意もあるため声かけしながら達成感を感じてもらえるよう、できることをしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートプランを活用し、以前の生活とご本人の今現在の心身の状態を考慮して、無理のないように、またご家族の要望も組み入れながら計画を作成している。	介護計画は、6か月に一度見直しを行い、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。内容が変わった場合は、面会時等に家族にも説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	体調の変化や日々の発言など、変わったことがあれば支援経過に記入し情報共有している。また困りごとや改善点等があればその都度ミーティングを行い、記録し、その振り返りをしたり、介護計画書へ反映し、より良い支援ができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の思いとご本人の自宅への思いをくみ取り、週に一度住み慣れたご自宅へ帰宅される方もいらっしゃる。友人からの手紙や贈物に対し電話でお礼や近況報告をし、関係性が継続するよう支援している。また、各ご利用者の日常の様子をまとめ、月に一度報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流が難しい中、折に触れご近所の方が畑で作られた野菜をくださったり、近くのグリーンフィールドへ散歩に出かけると地域の方が声をかけてくださったりと、地域資源を活用しながら日々の生活に変化を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、ご本人やご家族の希望にそってかかりつけ医を決めるようにしている。またご本人の状況に応じて、ご家族へ報告・相談しながら、かかりつけ医以外の専門医への受診も行っている。	受診は、基本的に利用者や家族に希望に添った医療機関で行うことができる。2週間に一度、訪問診療もあり、状態に合わせて歯科や眼科、精神科等への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、併設事業所の移転に伴い看護師は不在であるが、困りごとがあれば事業所内の看護師に相談したり、場合によっては様子を見にきてくれるなど、良好な関係が保てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍のため入院時は面会できないが、必要なものがあれば持っていく、看護師に施設での様子を伝えたり、病院での様子を聞くなどの関係づくりに努め、退院後の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは契約時、そして状況の変化に応じて、ご家族との話し合いを行っている。ご本人の終末期に対する意向は会話の中でくみ取り、記録に残し、ご家族等と方針を共有できるように努力している。協力医の理解・協力のもと、看取りを行っている。	終末期に向けた支援については、契約時にも確認しているが、家族の気持ちの変化もあり、その都度話し合いを行いながら、状況や希望に合った支援が行えるように努めている。年に一度、職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画で「緊急時対応」や「救命救急」について勉強し、急変時や事故発生時の対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や年間研修計画で「防災」について見直しを行っている。当事業所は、防災マップやハザードマップにて、避難より移動しない方が安全なことが多いと把握し、備蓄品を揃え備えている。コロナ禍で地域との共同防災訓練も出来ておらず、協力体制の構築が課題である。	地域と協力し合っの避難訓練の取り組みは困難な状況だが、グループホームだけで夜間を想定したものも含め、年2回行われている。ホーム内には、水や食料品等の備蓄品が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の職員会議での「身体拘束廃止に向けて」の勉強会にて、度々スピーチロックについても学ぶ機会があり、お一人ずつに対する“言い換え言葉”の事例を挙げ、人格や誇りを損ねないように努力している。	職員会議では、具体的な事例を挙げながら「言い換え言葉」について話し合い、否定するのではなく、共感しながら相手の気持ちに立った言葉を使うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不意に外に出られるご利用者に対し、職員全員が所在確認を意識して見守ったり、時には一緒に歩く等、ご本人の思いを尊重している。またテイクアウト弁当注文時は、ご本人に好きな物を選んでいただく等々、自己決定できる場を提供するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良い日は外へ散歩に行かれたり、敷地内を散策・日光浴、中庭で自身の時間を楽しまれる方もいらっしゃる。個々で出来る事、やってみたい事を提供したり、希望にそう努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・身だしなみに気を配り、季節や気温の変化に応じた服装の提案をさりげなく行ったりしている。また、長期入居によりサイズや状態が合わなくなった衣類を新しく買い替えたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備、料理の盛り付け、食器洗い・拭き等、個々が出来ることを提供し、日々の食事作りを一緒に行っている。食べたい物ややりたい事を聞き、一緒に考え、時には昼食にたこ焼きパーティー、おやつにプリン作り等を企画・実行し、職員も一緒に楽しんでいる。	コロナ禍の中だからこそ、食事を楽しめるように心がけている。訪問時も、早い時間から利用者の方が野菜を切ったり、盛り付けをするなどの手伝いをされていた。献立も、利用者の希望を聞いたり、いただきものや敷地内の畑で収穫したものを使いながら考え、調理から後片付けまで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ずつの体調の変化に応じた食事形態や量の調整を行っている。水分がなかなか摂れない方にはトロミを加えたり、ゼリーに変えてみたりし、必要量が摂れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度の歯科衛生士による指導のもと、口腔内の清潔保持に努めている。介助が必要な方は口腔ケアを行い、自立の方は声掛けでご本人にしていいただき、磨き残しがあれば仕上げ磨きをさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔を把握し、それぞれに合わせた声掛けやトイレ案内を行い、排泄の失敗を減らせるよう支援している。職員間で共有できるよう、排泄表を活用している。	介助の必要な方には排泄表にて、一人ひとりに合わせた支援ができるように心がけている。自宅にいたときより清潔が保たれ、皮膚トラブルがなくなった利用者も見受けられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や室内での歩行訓練、ラジオ体操など、適度な運動が日常生活の中で行えるように心掛けている。ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖などを摂っていただいたり、協力医と相談しながら服薬での便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や気持ちを考慮し、入浴順や別日への振り替えなど、柔軟に対応している。言葉かけや入浴剤の利用など、気持ちよく入浴していただけるよう努めている。	入浴時間は、基本的に午後としているが、拒否される方には午前に案内してみたり、声掛けの仕方や人を替えながら、気分よく入浴を楽しんでいただけるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるよう、日中活動的に過ごせるように支援している。ただし、体調や気持ちに合わせ、無理せず、休憩時間を設けたり、居室で過ごしていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報と薬と一緒に管理し、常に薬内容が確認できる状態にしている。服薬までに職員間で三重チェックを行い、確実に口の中に入るまで見届けるようにしている。特に薬の変更後は、体調の変化に注意し、何かあれば都度主治医や薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことに合わせた日々の日課を考え、声掛けしている。工作・園芸・家事等、日々役割を持って活動し、生活にメリハリをつけていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を取り入れたライフサポートプランを立てているが、コロナ禍で外出は殆ど出来ない状態である。その中で、町内の散歩時に近所の方への挨拶やお花見ドライブなど、少しでも地域との交流が途切れないよう心掛けている。	利用者の外出は困難な状況が続いているが、ドライブや人がいない場所に出かけるなど、職員を増員して安全性を保ちながら、いまできる外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は外出が出来ないため、お金を使う機会が減っているが、歩ける方は時々、財布を持って近所にある自動販売機まで行き、好きな飲み物を購入している。また、盗られ妄想のある方には、安心していただけるよう財布にお金を入れて持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人より手紙や贈物が届けば、職員が間に入りお礼の電話をしたり、牛乳パックで作ったはがきで年賀状を出したりしている。また、携帯を持たれている方には、時々ご家族に電話を掛けてお話をさせていただけるよう声掛けをして促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員が共に居間や玄関の掃除をしたり、中庭には一緒に植えた花や野菜などがあり、居心地の良い場所作りを心掛けている。 玄関にはご利用者の方々が生けられたお花を飾ったり、居間にはご利用者と共に作成した作品を飾り、季節を感じてもらえるよう工夫をしている。	玄関入ってすぐに、利用者が生けられた花が飾っており、居間にはたくさんの作品が季節感が感じられるように展示してある。 共用空間は明るく清潔で、快適に過ごせるように工夫され、訪問時もほとんどの利用者が思い思いにゆったりと過ごされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性を配慮し、配席には気を配っている。日中は、居間と居室を歩き来される方もおられるが、お手伝いや作品作り、テレビを観たり歌をうたわれたり等、のんびりと居間で過ごされる方が殆どである。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇・ご家族の遺影、ぬいぐるみを置くなどして、ご本人にとって居心地よい空間を作るように心掛けている。	居室はどこも清潔に保たれ、仏壇やぬいぐるみなど、利用者や家族の意向に合わせた物が持ち込まれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をわかりやすくしたり、通路は歩行の妨げにならないように注意をしている。一人ひとりの身体状況に合わせて歩行器や車椅子を使用し、安全な生活が送れるよう支援している。(北側居室はトラブル回避のため表札を排除)		